

農場と食卓をつなぐ

昨年、フランス北西部ペイ・ド・ラ・ロワール地方の新規就農者ロランさんを訪問した。ロランさんは27歳。農業高等学校を卒業後、高等専門学校、^{かきん}家禽専門コース、そして隣県の農協の家禽の指導員としてのキャリアを経て、26歳で就農した。父と叔父と親戚ではないガブリエルさんを構成員とする共同経営農業集団GAECの一員となり、ラベルルージュの認証を受けた家禽経営をしている。理髪店勤務の奥さんと11か月のお子さんとの3人家族だ。

ラベルルージュは、1960年に伝統的な食品とそれを支える農業、農家を守るために創設された制度である。伝統的な生産・飼育基準に従って作られ、高品質と認められた食品に政府から承認された表示であるラベルルージュ（赤いラベル）を付けることができる。消費者には高い品質の食品として良く知られ、通常の食品より高い価格が付けられている。

ロランさんの農場では、若鶏とホロホロ鳥を天然の飼料を使い、平飼いで、羽の生えそろった5週から12週には外の草地にひよこが自由に出られるようにするなど、ラベルルージュの基準に従って飼育している。ロランさんは、生まれる前からこのGAECで行っていたラベルルージュでの家禽飼育に魅力を感じ、また、フランス国内で価値が認められ、外国産との競合が少ないラベルルージュには将来性があると考えている。ロランさんが組合員となっているテレナ農協はラベルルージュも含めて「新しい農業」というブランドを打ち出し、ホームページではそれらの商品がどこで買えるかを紹介している。

フランスの新規就農者対策は、直接支払い、社会保障費の軽減、ビジネスプランの作成支援など手厚いが、ロランさんの例からは、農業者の行う農業、農産物が消費者に評価され、そのことを支える仕組みが新規就農者対策としても重要なことを教えられる。

日本のJAIは、農業関連の様々な事業を行っており、また新規就農者支援として、就農前の研修、農地や施設のあっせん、就農後の営農指導などを行っている。そのなかでも、JAIが組合員の生産する農産物を販売し、また売れる農産物を農業者に伝えていることが、新規就農者を含め農業者が安心して農業にとりくむためには必須である。

一方で、消費者であるJAIの准組合員や地域住民はJAIに安全・安心な農産物の安定的な供給を求めている。2008年に当研究所が9 JAIの組合員と地域住民に実施したアンケートでは、准組合員と組合員以外の地域住民にたずねた、「期待するJAIの役割」として、最も多かったのが「安全・安心な農産物の供給」、次いで「農産物の安定供給」であった。

JAIは、農産物を市場や実需者を通じて遠くの消費者に販売するだけでなく、地域のなかで、農業者である正組合員と准組合員、地域住民の思いをつなぐこともできる。

最近訪れたJAIの農産物直売所には小さな子供連れの女性や妊婦さんが数多くおられた。新鮮で安心な地元の農産物の魅力に加え、店内のあちこちに食のソムリエの資格を持った職員が立ち、農産物のおいしさや調理法を利用者に伝えていることが、食の安全性やおいしさに最も敏感な層を引き付けていると思われた。

消費者に生産者側の情報を伝えることに加えて、JAIは、消費者側である准組合員や地域住民からの農産物への評価、そして希望、例えば農産物に求めるもの、知りたいという声を農業者に伝えることも可能であろう。このことは、生産者のやりがいにもなり、またより消費者に評価される農産物が生産されることにもつながるだろう。さらに、生産者と消費者、すなわち正組合員と准組合員、地域住民をより強く結びつけることも期待できる。

（（株）農林中金総合研究所 常務取締役 斉藤由理子・さいとう ゆりこ）